

## 大阪市庁舎中之島移転 100 年

写真は元旦の大阪日日新聞から。市庁舎の歴史をひもとくと、初代(西区江之子島)は 1899(明治 32)年、2 代目(北区堂島浜通)は 1912(明治 45)年にそれぞれ運用を開始した。3 代目は 1921(大正 10)年 5 月に現在地に完成。「高津の宮の昔より～」で始まる大阪市歌もこれに合わせて公募、制定されていることから、1 世紀にわたり歌い継がれてきたことになる。特徴的な塔屋をはじめ威容を誇る外観は、市中央公会堂、大阪図書館、日本銀行大阪支店とともに長年にわたって中之島の景観を際立たせた。

写真右は「威容を誇る 3 代目大阪市庁舎=1980 年」、左上



は「第 1 期工事中に並んだ旧庁舎(左)と新庁舎。手前の土佐堀川には貸しボートが浮かぶ=1982 年」、その下が「4 代目となる現在の大阪市庁舎」。

この現在の大阪市庁舎に昨年 10 月、「大阪市廃止・特別区設置住民投票」の大きな垂れ幕が下がった。大阪市の廃止されるかもしれない状況に、市庁舎はどんな気持ちだったのだろうか。大阪市廃止後に特別区が設置されたら、ここは「新北区」の庁舎となり、淀川区などの職員も間借りする予定だった。

コロナ禍の 11 月 1 日に強行された住民投票の結果、大阪市民は大阪市廃止・特別区設置「反対」を選択した。131 年の歴史をもつ大阪市の、政令指定都市として存続することが決まった。大阪維新の会と公明党は、議会では圧倒的に多数を占めているが、草の根の市民の底力がそれを上回ったのだ。



写真下は淀屋橋上から撮った大阪市役所。地下鉄の駅を上がり淀屋橋に立つと、いつも市役所をじっくり眺める。土佐堀川と市庁舎のコントラストが好きだ。住民投票の 5 日後に撮った市役所は、なんだか堂々としているように見えた。この庁舎は離れて眺めると、真中あたりでドッキングした痕跡がわずかに分かる。



正月元旦の紙面から、つい「往時しのび歴史ひもとく」写真に目がとまった。

(2021 年 1 月 2 日)